

小樽・後志におけるヒューマンストーリーの発掘と地域資源化

プロジェクト代表者：小山田 健 プロジェクトリーダー：高野 宏康

1. プロジェクトの目的・概要

●プロジェクトの目的

小樽・後志地域では、近代以降、多様な歴史文化が展開していますが、その担い手たちが高齢化などにより年々減少し、記憶の風化が進んでいます。本プロジェクトの目的は、小樽・後志地域の人たちのヒューマンストーリーを調査・記録し、地域資源としての活用を推進することです。

2. 具体的な取組内容

●地域情報の学習および取材方法・記事のまとめ方の修得(採択後～平成29年7月)

授業(総合科目「グローバルズムと地域経済」)内で、小樽・後志地域の歴史文化および社会経済の特徴、取材方法、記事のまとめ方についての講義および、小樽市内バスツアー(5/27)によるフィールドワークにより、地域社会に対する理解を深め、取材と記事作成方法を習得しました。

●インタビュー実施と記事作成(平成29年6月～7月)

小樽のまちや歴史に詳しい市内在住の23人に学生が各3～4名のチームでインタビューを実施。約2千字の記事を作成しました。昨年度よりインタビュー先と密接にやり取りを行い、文字数を500字増加するなど記事作成方法の改善を行い、記事のクオリティを向上させました。

●ゲスト講師とのトーク&ディスカッション

ゲスト講師(渡邊英彦氏・富士宮焼そば学会会長)を招聘し、食を通じた地域活性化についての講演および学生とのトーク&ディスカッションを実施しました(5/31)。

●インタビュー先と学生の公開座談会(平成29年11月14日、会場：おたる千成)

手宮地区のインタビュー先等5名と学生による公開座談会を実施し、地元住民95名が参加しました(「小樽のひとに学ぶ～手宮の歴史文化とまちづくり～」)

●COCシンポジウムでの成果報告(平成30年2月20日、会場：小樽市民センター)

本プロジェクトに携わった学生2名がプロジェクトの内容と成果について報告しました。

●インタビューと座談会をまとめた冊子発行(平成30年3月、1000部)

インタビュー記事と公開座談会を収録した冊子を発行しました。小樽市内各所で配布し、市立小樽図書館等、小樽観光協会などに設置しました。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

学生は授業での学習により地域への理解を深め、記事作成、座談会参加等により情報発信力を高めました。インタビュー集を発行、公開座談会開催により、小樽の人的資源について、市民・観光客へ情報発信し、着地型・交流型観光コンテンツなど地域資源としての活用を推進しました。



取材の様子(株式会社樽石にて)



手宮での公開座談会(11/14)

